

日本心理言語学プロジェクト

(Japanese Psycholinguistics Project)

ジョセフ、ケス

宮本正夫

Department of Linguistics

University of Victoria

British Columbia

Canada

1. 研究の目的と概要

心理言語学の目的は、人間が自然言語を獲得、学習、記憶、理解、産出するメカニズムを解明することにある。本プロジェクトの主旨は、日本語に関する心理言語学的研究の文献目録を作成することであり、既にその成果として、「日本心理言語学的研究の文献目録(注釈付き)」(Kess & Miyamoto, 1994)を出版した。この目録作成作業の継続と並行し、意義、興味あるテーマを見つけ、研究論文の作成等も、本プロジェクト作業の一環である。本年度は、「歴史言語学」、「自然言語処理」、「談話分析」及び「仮名漢字処理」とテーマを広げ研究を行ったので、その成果内容を以下に述べる。

2. 本年度の研究成果

2.1. 歴史言語学

歴史言語学に関わる問題として、Miyamoto & Kess (In Press)を、「日本の変貌と挑戦」と題された Japan Studies Association of Canada の年次学会で発表した。明治初期から今日までの(言語)心理学の発展を要約した後、国際化、高度電子技術化、老齡化等に伴う社会問題が、いかに日本語の諸側面と重要な関わりを持つかを提示した。例えば、国際化と帰国女子に関わる社会言語学的問題、高度電子技術化と自然言語処理に関わる問題、老齡化と言語喪失に関わる医学言語学的問題等に見られる様に、言語の諸側面を理解することなくしては、日本の今日の変貌と未来への挑戦を展望することは出来ないと論じた。

2.2. 自然言語処理

自然言語処理に関わる問題は、Berett, Miyamoto & Kess (Submitted)としてその成果を出版した。英語に代表される Right-Branching-Language と日本語に代表される Left-Branching-Language の構文の違いの処理がいかなる問題をもたらすかを解説した。そして、神経処理構造をモデル化した Combinatorial State Automation (CSA)が、構文処理の大部分が語彙処理レベルで行われると仮定するならば、記憶容量の点からも、最もうまく Left-Branching Language の構文処理

問題を説明出来ると論じた。

2.3. 談話分析

談話分析の成果に関しては、Miyamoto & Kess (In Press)を発表した。ここでは、まず、日本の広告と米国の広告を、Soft-Sell と Hard-Sell の概念で比較した。そして、日本の Soft-Sell 方略は、決して一般に言われている様なナイーブな宣伝方略ではなく、巧妙に仕掛けられた方略であると議論を展開した。三か月間の新聞広告(読売新聞)をもとに、それらの Headlines(見出し)の構造に焦点をあてた。大多数の Headlines が、Head(頭)と Tail(尾)の二部分より成り、特に「頭」が、広告主と読者との Liason-Establishment(関係づくり)に、いかに重要な役割を果たすかを実証した。そして、この「頭に基づいた広告主と読者との Liason-Establishment」が、Soft-Sell と言われる日本の印刷広告における一大機能、一大特徴であると論議した。

2.4. 仮名漢字処理

仮名漢字処理に関しては、以下の研究をおこなった。

1. Kess & Miyamoto(1996)では、実験心理学及び失語症学の観点より、仮名漢字処理と左右大脳半球化(cerebral lateralization)の問題を検討した。仮名が左脳、漢字が右脳と言う古典的見解(e.g., 笹沼, 1977)を支える証拠は見当たらず、文字列自体ではなく、仮名漢字に関わる処理機能の差異が lateralization を決めると論じた。ただ、失語症学にあつては、仮名漢字処理等に関して、左脳と右脳とがどのように相互に機能・抑制し合っているのかは未だ解き明かされていないと述べた。また、同時に、角田(e.g., 1978)の一連の dichotic listening 実験パラダイムに基づく「日本人論」に対して疑問を投げかけた。日本人通常者、脳損傷者、また、外国人日本語学習者等による仮名漢字処理の諸実験データをもとに、日本人の脳の左右半球化が欧米外国人のそれに比して、特に異なるものではないと論じた。

2. Kess & Miyamoto (In Press.), Miyamoto

& Kess (To Appear(a))そして Hwang, Kess & Miyamoto (To Appear)との一連の論文においては、中国語における漢字処理を検討した。まず、Kess & Miyamoto (In Press.)において、中国語における漢字処理研究を概観した。漢字処理が英語等の音韻文字処理と変わらないとする仮説と、漢字処理はユニークであるとする仮説の攻防が、中国語漢字処理研究のメインテーマであり、どちらが妥当かは、いまだ決着がついていないと述べた。Miyamoto & Kess (To Appear(a))は、中国語漢字処理研究と日本語漢字処理研究を比較し、Dual Route Hypothesisの妥当性を強調し、中国語における漢字処理が英語等の音韻文字処理と変わらないとする説に疑問を投げかけた。Hwang, Kess & Miyamoto (To Appear)では、さらに、諸処理モデルの妥当性について検討を加えた。

3. 今夏のパリとアムステルダムでの学会に向けた二論文(Kess & Miyamoto (To Appear), Miyamoto & Kess (To Appear(b)))においては、目下、これまでに提唱された仮名漢字処理の諸モデルの妥当性をさらに検討中である。

参考文献

- Bertt, Arthur, Tadao Miyamoto & Joseph F. Kess. (Submitted) A Nested Combinatorial-States Model of Sentence Processing in Left-Branching Language. *Informatica: International Journal of Computing and Informatics*.
- Hwang, Kathy, Joseph F. Kess & Tadao Miyamoto. (To Appear) An Overview of Chinese Word Recognition Models. *Proceedings of North American Conference on Chinese Linguistics*.
- Kess, Joseph F. & Tadao Miyamoto. 1994. Japanese Psycholinguistics: A Classified and Annotated Research Bibliography. Amsterdam: John Benjamins.
- Kess, Joseph F. & Tadao Miyamoto. 1996. Psycholinguistic Evidence for Laterality Reference and Information Processing in Japanese. *Language Research*. 32.2.351-371.
- Kess, Joseph F. & Tadao Miyamoto. (In Press) Psycholinguistic Aspect of Hanji Processing in Chinese. *Journal of Southeast Asian Languages*.
- Kess, Joseph F. & Tadao Miyamoto. (To Appear) Cognitive Dimension of Lexical Access in Japanese: Address Routes for Kana and Kanji.

Proceedings of International Conference on Cognitive Linguistics. Amsterdam.

- Miyamoto, Tadao & Joseph F. Kess. (In Press) Discourse Analysis of Japanese Newspaper Advertisements. In Tim Craig(Ed.) *Japanese Popular Culture*.
- Miyamoto, Tadao & Joseph F. Kess. (To Appear(a)) Psycholinguistic Dimensions of the Mental Dictionary in Chinese vs. Japanese. *Proceedings of North American Conference on Chinese Linguistics*.
- Miyamoto, Tadao & Joseph F. Kess. (To Appear(b)) Japanese Psycholinguistic Research in the Mental Lexicon. *Proceedings of XVIth International Congress of Linguists. Paris*.
- 笹沼澄子 1977. 「失語症におけるカナと漢字の障害」言語 6.66-74.
- 角田忠信 1978. 日本人の脳：脳の働きと東西文化. 大修館書店